



発行 7850-0013 長崎市中央2丁目2番5号 長崎高教組会館 長崎県高等学校教職員組合 (095)-827-5882 FAX (095)-826-2976 編集責任者 平井秀治 一部 10円

高教組メールアドレス info@nagasaki-kokyoso.org

# 月100時間超の超勤者 増加続く

## 本年4~7月 延べ1953人(12.4%)

### 県教委資料でも明らかに

業務の縮減は「管理職マニュアル」の対応だけではできない

職場では依然として超勤状態が続く、しかも増えていることが明らかになりました。県教委の資料に基づく「超勤が月100時間超の職員についての集計資料」(左表)によると、4月~7月、県立学校職員延べ1953人(12.4%)が正規時間を超える月100時間を超え、勤務に就いています。この実態は、昨年度の確定交渉時に、県教委は「業務の縮減について」

# 「組合員の方々に支えられていた」

## 55人目の加入は口加分会から

高教組書記局に11月1日、口加高分会から嬉しい加入届が届きました。加入届には「若いころ組合員でした。(中略)。それまで組合員の方々に支えられていたことに気づきました。微力ですが、よろしく願います」とする思いが丁寧に記さ

### 【超勤が月100時間超の職員についての集計結果】

- 注・①県教委資料より高教組作成。
- ②2011年度の8~11月の資料は未集計です。
- ③該当者数は4ヶ月の延べ人数、割合は%。

4~7月	2009年度	2010年度	2011年度
	該当者数(割合)	該当者数(割合)	該当者数(割合)
全体計	1,752(10.7)	1,871(11.6)	1,953(12.4)
全日制普通	1,301(21.0)	1,382(23.0)	1,372(23.9)
全日制実業	295(9.0)	339(10.1)	397(12.1)
全日制総合	151(8.8)	146(9.1)	181(12.0)
特別支援	1(0.0)	1(0.0)	2(0.0)
定・通制	4(0.4)	3(0.3)	1(0.1)
8~11月	2009年度	2010年度	
	全体計	1,449(8.9)	1,480(9.2)
全日制普通	1,135(18.4)	1,128(18.8)	
全日制実業	237(7.2)	251(7.5)	
全日制総合	77(4.5)	101(6.3)	
特別支援	0(0.0)	0(0.0)	
定・通制	0(0.0)	0(0.0)	
2~3月	2009年度	2010年度	
	全体計	1071(6.5)	1093(6.9)
全日制普通	914(14.7)	916(15.5)	
全日制実業	104(3.1)	132(4.0)	
全日制総合	52(3.0)	44(2.8)	
特別支援	1(0.0)	1(0.0)	
定・通制	0(0.0)	0(0.0)	
年間集計	2009年度	2010年度	
	全体計	4,272(8.7)	4,444(9.3)
全日制普通	3,350(18.1)	3,426(19.1)	

### 全全日制普通校では5人に1人以上

高教組は県教委交渉に「超勤勤務縮減のための教職員アンケート」(7~10月)にとりくみま

### 「休みを与えてください」

#### 「部活動」に関する意見 ①

高教組は県教委交渉に「超勤勤務縮減のための教職員アンケート」(7~10月)にとりくみま

### 書記局から

教員採用試験の結果が10月7日に出た。合格の報とともに、礼を記した手紙が書記局に寄せられた。そのうちの一つから。

「二次試験前の対策学習会では、大変お世話になりました。お陰様で、二次試験に合格することができました。本当にありがとうございます。」

特に模擬授業の指導を受けた後、自分の勤める高校の先生方にも見てもらい指導をして頂いたことが、本番でも生きました。学習会に参加していなければ、練習を充分せずに本番に挑んでいたかと思うと、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。また、小論文や面接の指導も大変的確で、試験前にしっかりと対策を立てることができました。

アンケートは、来年度受験される先生方のためにお役に頂ければ幸いです。今後ともよろしくお願い致します。」

高教組のサポートだけでなく同僚がお手伝いすることが何とも嬉しい。そして、礼状を寄せた氏が、次の受験者を支援しようとする気持ちも実に嬉しい。今後ともサポートを続けることを私たちも約束する。

貧弱なものである。練習人が多くて職場がギスギス合等は自己負担、時間外労働は当然のこととならな

# 長崎県を紹介する英語教材 県教委「活用は強制ではない 各学校の判断で」

高教組は、県教委の「長崎県を英語で語る高校生育成事業」の一環で発行された英語教材の活用は強制ではなく各学校の判断で行うということを確認しました。

県教委は、「社会の変化や国際化に対応した教育の推進」を掲げてジュニア・イングリッシュ・チャレンジ事業など、いくつかの事業を展開していますが、新規事業として、「長崎県を英語で語る高校生育成事業」を今年度から3年間実施することとしています。

この事業は、長崎県を紹介する英語教材を、全校の公立高校の1年生に配布し、その教材を活用

用して、英語で長崎県を図ると説明されています。紹介ができる生徒の育成です。

この英語教材の活用には問題だと指摘し、事実関係の確認を求めました。

「10月21日に行われた県英連の大会で、高校教育課の指導主事から、各学校で必ず使わなければならないかという意味で話された。活用を強制するものではない」と回答しました。

また、県英連の大会で配付された文書に記載されていた「インタビュートテスト」についても、「報告してもらおうのは実施した学校だけ」と回答しています。

「参加と共同の学校づくり」にはさまざまな形態があります。「三者協議会」や「三者懇談会」などによる参加と共同の学校づくりでは、学校に

関わっている生徒・保護者・教職員が一堂に会し、学校をより安全で快適な場にするために施設・設

備などの改善要望を出し、より良い教育にすべく、生徒たちは自分たちの要求を主張して、校則などを改善していきます。そこには責任が生まれます。つまり、自分たちが要求してつくったルールは自分たちで守っていく」という権利と責任の自覚です。

これらの参加と共同の学校づくりの到達点をおさえ、新しい「学校づくり」論を展開しました。

## 第7章「生徒の成長を促す学校づくり」

長崎高教組執行委員 前田 祥紀

従来型の学校運営は、教職員の協議と合意によってすすられてきました。しかし、現在の学校運営には問題点はないのでしょうか。

### 日高教「高校教育の再生」

再生の道は、*regeneration*

①校長権限の強化と職員会議の形骸化、②学校評価制度・教職員評価制度による悪影響、③形骸化する生徒会活動、④開かれていない学校に対する父母の不満急増、⑤多忙化する職場、⑥職場の自主的研修の激減といったことが問題点として考えられます。

このような状況の中

場にするために施設・設

備などの改善要望を出し、より良い教育にすべく、生徒たちは自分たちの要求を主張して、校則などを改善していきます。そこには責任が生まれます。つまり、自分たちが要求してつくったルールは自分たちで守っていく」という権利と責任の自覚です。

これらの参加と共同の学校づくりの到達点をおさえ、新しい「学校づくり」論を展開しました。

「写真 近況を報告し合い開放感が漂う会員」

退職者を中心に結成されている高退教の泉南支部は、11月1日、高教組会館で恒例の観月会(参加18人)を開催しました。

当夜は、6日月であったため、室内に満月の絵でこれを補い、雰囲気満点。会員の健康を祝し、交わした一杯、一杯は元気の素となっていました。

交流会の前には「太平洋戦争の攻防」(講師・木原秀夫さん)の学習をしっかりと行いました。

ようこそ 今日こそ 高教組

## シヤ ひと旅 (IV)

in オーストラリア

私はネパールからインドに戻り、首都デリーからトルコのイスタンブールに飛ぶ予定でしたが、残念ながら旅の資金不足でこれ以上予定通りの継続は難しくなりました。

しかし出発するまでに数年をかけたこの旅を、このまま終わらせてしまうのは、志半ばという気がしました。そこで急遽オーストラリアに飛び資金を稼ぐことにしました。そして今は、西のパスという町のはずれにある冷凍食品の工場で働いています。

### 自由な暮らしとは程遠い感じ



オーストラリアは日本よりも物価も賃金も高く、町も清潔で、まさに先進国という感じがします。途上国、それもインドから来た私はその環境に慣れるまでしばらくかかりました。先進国に着いた途端、旅が突然終わってしまい心に穴が開いたような気がして、活動や思考回路がストップしてしまっただけです。

先進国に来て、改めて何が自由なのか、何が良いことで何がそうでないことなのか考えさせられます。清潔な環境を守る為の過剰なルール、サービス。違和感を感じるほど整った住宅街の一軒に住込み、ガチガチに決められた家の決まり事を守りながら、物音をあまりたてないようにして10人弱の労働者が暮らしています。消費物に対する選択肢は途上国の何百倍もありますが、何だか自由な暮らしとは程遠いように感じます。

インドのコルカタで2年近く旅をしている日本人の方がこんなことを言っていました。

「善悪の判断は、多くの人間が宗教や法律に委ねている。女性が肌を見せてはいけない国があったり、大麻が合法の国もある。僕ら日本人はどちらかというと法律に任せているんだろうけど、法律なんて国境を越えれば変わるし、時代や国の都合で変わっていくもの。でも僕らが国を移動したからと言って、ころころと善悪の基準をその国に合わせるのとはおかしい。だから面倒だけどひとつひとつ自分で価値判断の基準をつくっていかなければならないんじゃないかなって思うよ。」

私は周囲に流されやすいタイプなので、全く違う文化に触れて多少混乱しています。これから先オーストラリア文化を自分なりに消化してから、なんとか自分の糧にしていきたいと思っています。(続く)

(注) シヤさんは20代の元高校教師

### 異なる時は連絡を 県教委のこうした回答

答と実際の動向とが異なる場合は、高教組に連絡をお願いします。

### 高退教泉南支部 観月会で学習会開催 一杯、一杯が元気の素

退職者を中心に結成されている高退教の泉南支部は、11月1日、高教組会館で恒例の観月会(参加18人)を開催しました。

当夜は、6日月であったため、室内に満月の絵でこれを補い、雰囲気満点。会員の健康を祝し、交わした一杯、一杯は元気の素となっていました。

ようこそ 今日こそ 高教組



「写真 近況を報告し合い開放感が漂う会員」